



添田町【福岡県】

歴史的文化遺産活用まちづくり基本構想

- 策定年月：平成30年3月改訂 ■ 人口：9,924人 ■ 面積：132km²
- 担当課：添田町まちづくり課（平成30年3月現在）



平成23年度の基本構想策定後、第5次総合計画後期基本計画の重点行動プロジェクトに歴史まちづくりプロジェクトを掲げ、各種の取り組みを推進している。町のシンボルで、古くから信仰を集める霊峰「英彦山」の下で育まれた歴史的文化遺産の保存活用を通じ、人々の交流と添田町へのシビックプライドを醸成させ、添田町のファンや定住者・企業者の増加・定着を目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

山岳信仰、修験道、水分信仰
街道・要衝、荘園

課題

- ・ 歴史的文化遺産のき損・滅失の進行
- ・ 歴史的文化遺産の活用施策の展開
- ・ 歴史的文化遺産の保存活用における民との連携

保存活用方針

- ・ 歴史的文化遺産の価値を堅実に保存
- ・ 歴史的文化遺産の魅力を積極的に活用
- ・ 官民連携による歴史的文化遺産の保存活用

保存活用のための取り組み

英彦山の国史跡指定、保存活用計画の策定

平成23年度の基本構想策定後、基本構想に位置づけた英彦山の総合調査を進め、国において文化財的価値が認められ、平成28年度に国史跡に指定された。現在、史跡英彦山の価値を活かした取り組みを盛り込んだ保存活用計画を策定中である。



中島家住宅の修理、活用に向けた整備、体制構築

平成23年度の基本構想策定後、基本構想に位置づけた国指定重要文化財中島家住宅の活用に向け、保存活用計画策定後、全解体修理と活用整備を進めている。地元まちづくり団体等と協議・調整を図り、建造物の価値の発信、地域の交流拠点等の検討を進めている。



宿坊等を活用した観光プランの開発

宿坊等の歴史的文化遺産を活用した観光プランの開発支援を通じ、歴史的文化遺産の普及啓発、交流を促進する。開発支援にあたっては、着地型観光や宿泊体験など、アイデアの効果検証を行うモニターツアーや社会実験等の実施を支援している。

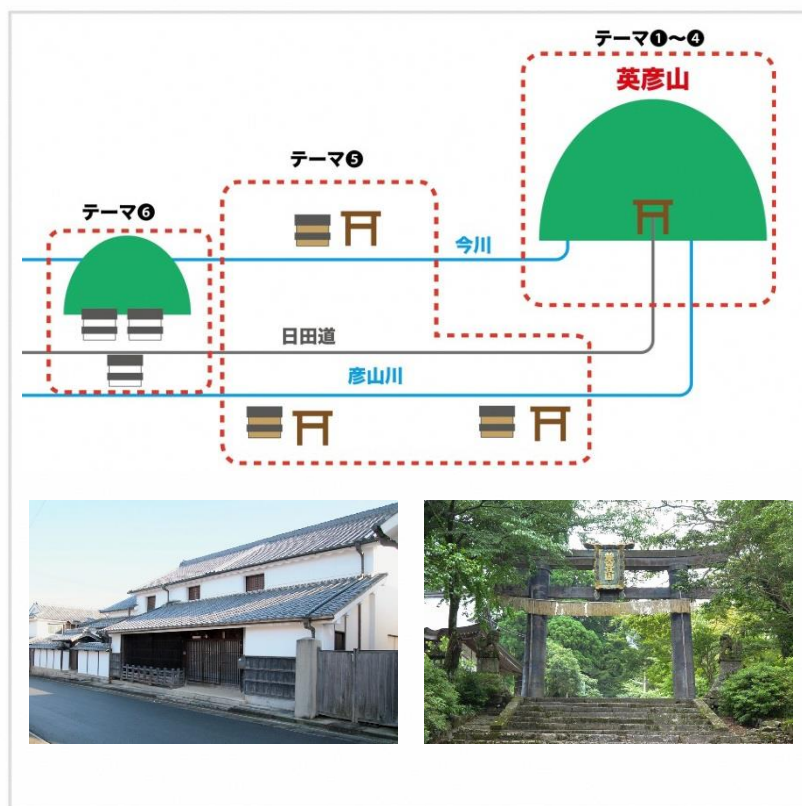


宿坊等の公開活用に向け、官民連携の保存活用体制構築

宿坊や庭園等の公開に向けた取り組みを進めるとともに、宿坊等の歴史的建造物における有料コンテンツの創出等により、資金循環型のスキーム構築を図るなど、官民連携による歴史的文化遺産の保存活用スキームの構築を進める予定である。



関連文化財群



添田町の関連文化財群は、町のシンボルであり、古くから信仰を集める霊峰「英彦山」を核とし、英彦山との関係性、歴史文化の活用面を重視し、設定している。英彦山を舞台に設定した関連文化財群が4つ、英彦山から流れ入れる川沿いの集落、英彦山への英彦山参詣に至る街道を舞台に各々1つ設定している。

ストーリー

- ① 英彦山神宮と松会祈年祭
- ② 英彦山門前と彦山踊り
- ③ 英彦山詣でと英彦山権現講
- ④ 英彦山豊前坊高住神社と信仰
- ⑤ 英彦山水系流域と伝統芸能
- ⑥ 英彦山参詣に至る街道・要衝の地と祭り

策定後の成果（見込まれる効果）

① 庁内の横断的な取り組みを推進

平成23年度の基本構想策定後、歴史的風致維持向上計画の策定、国の認定を経て、総合計画の重点行動プロジェクトに歴史まちづくりが掲げられた。教育委員会にあった文化財係は、観光係等と一体となったまちづくり課に移行することで、横断的に取り組む体制が整い、歴史まちづくりを推進している。



② 文化財指定を通じた計画的な保護

指定・未指定を問わず文化財の保護を通じたまちづくりの基本構想を策定したことで、文化財指定による保護を打ち出しやすくなった。これにより、かねてより未指定の文化財が豊富にあった英彦山の総合調査を実施し、国史跡に指定された。保存活用計画策定を通じて、計画的な文化財の保護を推進している。



③ 地域の歴史まちづくり組織の設立

基本構想で位置づけた保存活用区域において歴史まちづくりを推進するため、町の支援により、地元住民等で構成される勉強会の取り組みが発展し、地域の歴史まちづくりを推進する団体が設立された。中島家住宅の庭園の草刈りなど、地域で取り組める活動から着実に進められている。

